「美術館教室」の紹介

「美術館教室」は，園児，児童，生徒を対象とした教育普及プログラムです。表現や鑑賞，職場体験，総合的な学習の時間における取組など，学校との連携をすすめる活動をしています。

粘土とのふれあい（例）

約１トンの粘土があります。１トンという量は，それを扱う子どもたちに少量での製作とは異なる感覚を与えうる量です。この粘土を使い，体感的に粘土と親しみます。

学校に粘土を貸し出すこともできます。貸し出すことのできる量は 400kg 程度です。搬入，搬出は学校が行います。

造形遊びなどで，多くの学校が活用しています。

絵の具とのふれあい（例）

水をかければきれいに落ちる絵の具を使用し，屋外展示テラスの石畳や，屋内で天井から透明ビニールをつるしたものにかくなどの活動を行います。

ワークショップ（例）

金沢健一＜音のかけら１＞を使用した鑑賞のワークショップです。厚さ0.9ｃｍ，直径2.2mの円形の鉄板を様々な形に溶断し，ゴムの足を付けて並べた彫刻作品で，マレットなどで叩き，鉄琴のように音を出すことができます。

館内鑑賞（例）

最初に子どもたちが受け取る７枚のカードには，それぞれロダンの作品についてクイズが書かれています。ロダン館の展示作品を見て回り，答えを探し，最後に解説を聞きながら答え合わせをします。

ギャラリートーク（例）

収蔵品展・ロダン館・企画展の展示作品を，学芸員やボランティアと一緒に鑑賞します。

作品を前にして，思ったこと，感じたことを，友だちや先生，学芸員やボランティアと話をします。

デッサン・スケッチ・クロッキー（例）

ロダン館において，ロダン作品を中心とした当館所蔵の彫刻作品を素描します。描くことで細部までじっくり観察し，鑑賞を深めることができます。

美術館の秘密（例）

誰もが楽しく鑑賞できる工夫，作品保護について，ワークシートを頼りに探っていきます。答え合わせでは，普段は見ることのできない美術館の裏側を探検し，美術館ならではの工夫を紹介します。

出張美術講座

美術館側から学校に出向いて児童・生徒に直接，美術館や美術作品の魅力について話をする「出張美術講座」を行っています。教材キット，掛け軸や屏風などのレプリカの貸出し，授業資料提供なども行っています。

収蔵品パズル（例）

パズルは６種類あり，作品は「収蔵品展」で比較的目にすることが多く，子どもたちが興味を持ちそうなものを選んで行っています。

最初に６種類の作品を黒板に並べ，自分の好きな作品を選び，その理由を発表します。

パズルは個人で取り組んでいくよりも，２人で協力して取り組んでいく方が楽しいようです。パズルをやってみることで，最初は気付かなかったものをたくさん見付けることができます。

紙芝居（例）

来館に先立ち，学校で「カレーの市民」について紙芝居で勉強します。学芸員からさらに詳しいお話を聞き，静岡県の歌「しずおか賛歌　富士よ夢よ友よ」の音楽に乗せて体を動かします。ロダン彫刻のポーズを取り入れた体操で，「カレーの市民」も出てきます。

美術館との連携例

ベルナール・ビュフェ美術館との連携例

美術館と近隣の学校との連携によって「鑑賞キット」を開発。このキットは，５種類（自画像，静物画，風景画，ピエロ，ストーリー）あり，それぞれのテーマを通して，ベルナール・ビュフェの作品を様々な角度から鑑賞することができる。美術館を実際に訪れることができない学校は，「鑑賞キット」を使うことによって，教室を美術館ギャラリーに変え，レプリカ作品の前で鑑賞授業を行うことができる。

ヴァンジ彫刻庭園美術館との連携例

所蔵品は，ヴァンジの彫刻，デッサンなどが豊富にあり，また，優れた彫刻作品を屋内だけでなく，屋外でも鑑賞することができる。

美術部員を連れて訪れる美術科教員も多く，教室内では鑑賞できない大きな彫刻を建物や自然との調和の中で楽しむことができる。子どもたちを中心としたワークショップも随時，開催されている。

伊豆松崎出身で，鏝（こて）と漆喰（しっくい）の名人職人「入江長八」の作品が収蔵されている伊豆の長八美術館は，建物自体が芸術品である。建物の随所に左官の芸がちりばめられている。学芸員による鑑賞の授業を行った後，漆喰鏝絵製作をしたり，光る泥だんごづくりをしたりすることにより，「入江長八」の左官の芸を体験する。

伊豆の長八美術館との連携例

上原近代美術館の学芸員とのＴＴによる授業。美術館内に収蔵されている作品を主に題材としている。日本の浮世絵が，西洋に与えた影響を課題として，生徒たちが資料を基に追究をする。学芸員は，授業者とともに，生徒への支援を行っていく。写真は，導入の場面である。

上原近代美術館との連携例

佐野美術館との連携例

佐野美術館所蔵の能面展を行った。美術館の依頼を受けて，生徒が学芸員として展覧会を企画するという設定である。

教師，学芸員，現代作家の三者で能面と現代美術を鑑賞する授業を展開した。その後，生徒たちが企画書をつくり，依頼者の前でプレゼンテーションを行った。その後，美術館が選択した企画を展覧会として具現化した。

池田 20 世紀美術館との連携例

池田 20 世紀美術館の建物は，日本ではじめてのステンレススチール張りの外壁であり，入口から出口まで有機的に連なるユニークな空間造形となっている。美術館では，館内の作品を模写する機会を子ども向けに提供している。また，その参加者の作品を夏休みの期間，画廊レジェにて「20 世紀こども名画展」として展示する取組を継続して行っている。例年多くの子どもたちが参加している。

ＭＯＡ美術館では，例年子どもたちの児童作品展を独自に行っている。さらにその作品を館内に展示し，子どもたちの絵画への関心を高めている。

近隣の学校では，ＭＯＡ美術館所蔵の『紅白梅図屏風』を鑑賞する際に，美術館と連携した取組を行っている。

MOA美術館との連携例

海野光弘氏の作品や関係資料を多数所蔵している記念館内で図画工作・美術科の教員が研修をする機会として利用している。

授業においても，学芸員を招いて鑑賞をしたり，直接分館を訪れて鑑賞をしたりしている。分館は，昭和の雰囲気を色濃く残す建物であり，海野光弘氏の版画とマッチしている。

島田博物館分館との連携例

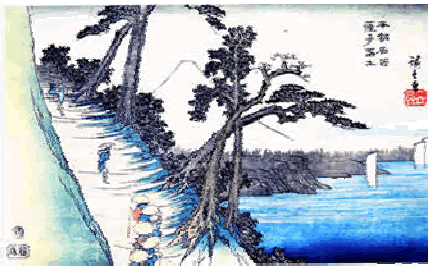
静岡市立芹澤銈介美術館との連携例

染色家・芹澤銈介の作品をはじめ，銈介が集めた世界の工芸品を展示公開している。隣接する登呂博物館（平成 22 年リニューアルオープン）も同じ登呂公園内にあり，歴史や美術に親しむことのできるエリアとなっている。

多くの小学校が遠足コースとして利用しているが，作品やコレクションの鑑賞を目的に，学芸員による解説を実施するケースも増えている。また，総合的な学習の時間で，子どもたちが「地域」の情報を集める際など，資料を提供したり，インタビューに応じたりしている。

静岡市美術館との連携例

開催中の展覧会ごとに、鑑賞教室「ミュージアム教室」を実施。展覧会担当学芸員が、参加者（幼・保～高校生のクラス単位から）の年齢に合わせた展示解説を行う対話型の鑑賞プログラム。作家や作品の魅力を紹介しながら興味関心を引き出し、自ら考えるよう促すことで、美術が身近で楽しいものとなることを目指している。併せて、美術館でのマナー理解にも努めている。約 60 分(前半 30 分で展示解説、後半 30 分で自由鑑賞)。希望日 1 週間前までに事前申込が必要。



由比本陣公園内にあり，浮世絵師・歌川広重の作品を中心に収集・展示している。館内は，「由比の自然と歴史」「東海道の宿場町・由比」「広重と浮世絵の世界」の３つのテーマ・スペースに分けられており，各スペースを利用し，美術や歴史に親しむことができる。図画工作・美術科の鑑賞，社会科や総合的な学習の時間での調査学習など，多様な利用に応じている。

東海道広重美術館との連携例

写真は，館内に展示された中学生の共同制作である。収蔵品は，江戸期から戦前にかけての日本画や書が中心で，静岡にゆかりのある版画家の作品もある。これらの作品を展示する館蔵展のほか，企画展も催される。常設展示はないので，展示会のスケジュールをチェックすることが必要である。

駿府博物館との連携例

常葉学園菊川高等学校
常葉美術館との連携例

中学生が常葉学園菊川高校を訪問し，美術デザイン科の生徒作品を鑑賞したり，教諭による講義を受けたりしている。中学生たちは，近い年代の生徒作品を鑑賞することにより，「自分でも描けるのかな？」といった，表現への興味関心を高めている。

また，隣接の常葉美術館で本物の絵画を鑑賞することができる。

秋野不矩美術館
との連携例

近隣の学校では，鑑賞と表現の授業で地域の作家「秋野不矩」の魅力を広く紹介するためにリーフレットづくりを行った。グループごとにテーマを決め，学芸員の協力を得ながら，ゲストティーチャーとして招いたり，子どもたちが美術館を訪問したりして，活動した。学芸員とのＴＴ授業なども学校の依頼に応じて行っている。

収蔵品は，近現代の優れた絵画，彫刻，工芸品などがある。クラスやグループなどで訪問することが可能である。

様々な分野の作品を鑑賞し，「自分のお気に入り」のジャンルや作風を見付けるなど，美術館鑑賞の入門的活動に適している。

併設の企業資料館では，商品パッケージやポスター等のデザインの変遷を鑑賞することもできる。

資生堂アートハウスとの連携例

子どもたちが本物の作品から「色」「絵肌」「空間」などを鑑賞することを通して感性を育むことに重点を置いている。常設展や企画展で，近隣の学校などが活用をしている。また，学芸員とのＴＴ授業なども学校の依頼に応じて行っている。

浜松市美術館
との連携例